

（写）

22生畜第1947号  
平成23年2月9日

都道府県畜産主務部長 殿

農林水産省生産局  
畜産部畜産振興課長

### 稻発酵粗飼料用稻に係る農薬使用について

稻発酵粗飼料については、平成22年3月31日付け21生畜第2086号で通知しているとおり、稻発酵粗飼料用稻に対する農薬使用については、「稻発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（以下、「マニュアル」という。）に記載された農薬の種類・使用方法による対応をお願いしているところです。

今般、粗飼料生産利用拡大調査研究事業（事業実施主体：（社）日本草地畜産種子協会）において、稻発酵粗飼料用稻の農薬の残留性試験を実施した結果等により、新たに下記の農薬が使用可能と判断されました。

つきましては、別紙のとおりマニュアルを改訂することとしたので、これに基づく対応をお願いします。

また、このことについて、貴管内の農家等の関係者に対し周知をお願いするとともに、地域の生産実態に応じた適正な農薬の選定と使用について指導をお願いします。

記

#### 1 マニュアルに追加する農薬

○殺虫剤

農薬の種類
テブフェノジド・ブプロフェジン水和剤

○殺菌剤

農 薬 の 種 類	農 薬 の 種 類
ピロキロン粒剤	プロベナゾール粒剤
フサライド水和剤 (フロアブル剤に限る。 地上散布は 1000 ~ 1500 倍に限る。)	プロベナゾール粉粒剤
プロクロラズ乳剤	プロベナゾール水和剤

○殺虫殺菌剤

農 薬 の 種 類	農 薬 の 種 類
カルボスルファン・プロベナゾール粒剤	フィプロニル・イソプロチオラン粒剤
ジノテフラン・フィプロニル・プロベナゾール粒剤	フィプロニル・イソプロチオラン・ピロキロン粒剤
ジノテフラン・プロベナゾール粒剤	フィプロニル・プロベナゾール粒剤
ジノテフラン・プロベナゾール水和剤	

○農薬肥料

農 薬 の 種 類
プロベナゾール複合肥料

注) 立毛中の稻を利用する放牧における農薬の使用についても、本マニュアルに記載された農薬の種類・使用方法による対応を行うこと。

2 マニュアルより削除する農薬

次の 6 剤は農薬登録失効又は稻の適用除外のため、マニュアルから削除する。

○殺虫剤

農 薬 の 種 類	農 薬 の 種 類
カルタップ・MIPC 粒剤	ダイアジノン粒剤
ダイアジノン乳剤	ダイアジノン・BPMC 乳剤
ダイアジノン粉剤	MPP 粒剤

## 「稻発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」

### II 稲発酵粗飼料の生産

#### 2 低コスト栽培

##### (5) 農薬使用

###### ① 病害虫防除

抵抗性品種の導入や病害虫発生予察を活用した的確な防除対策を基本とし、病害虫の発生が周辺の食用イネに影響をおよぼさないように配慮しつつ、航空防除の実施地域では作付の団地化を行うなど、防除対策について地域の関係者で十分な協議を行う必要がある。

その際、コスト低減を図るため、病害虫の発生状況を的確に把握し、必要最小限の防除に努めることが重要である。

なお、稻用に登録されている農薬のうち、①登録時のデータから稻わらへの残留性が十分に低いと認められる農薬や稻わらに残留しても牛の乳汁に検出されないことが確認されている農薬、②平成15年度以降に実施したWCS用イネでの残留性試験や乳汁移行試験により残留性がないと確認された農薬は、以下のとおりである。

農薬による病害虫防除が必要な場合には、これらの中から、都道府県の稻作指導指針等に記載されている農薬を、地域の農業改良普及センターの指導に従って作型や病害虫の発生動向等を踏まえて選定する。農薬の使用に当たっては、当該農薬のラベルに記載されている「収穫○日前まで」という使用時期の「収穫」をWCS用イネの収穫（黄熟期）にそのまま適用するため、防除可能な期間が食用イネより1週間～10日程度早まるに留意する必要がある。

また、立毛中の稻を利用した放牧についても、本マニュアルに記載された農薬の種類・使用方法に従うこと。

#### 殺虫剤

農薬の種類	農薬の種類
イミダクロプリド水和剤	フィプロニル粒剤
イミダクロプリド粒剤	ブプロフェジン水和剤
カルタップ水溶剤	ブプロフェジン粉剤
カルタップ粒剤	ベンフラカルブ粒剤
カルボスルファンマイクロカプセル剤	BPMC乳剤
カルボスルファン粒剤	BPMC粉剤
ジノテフラン水溶剤	BPMC・MEP粉剤
ジノテフラン粉剤	MEP乳剤
スピノサド粒剤	MEP粉剤
チアメトキサム粒剤	MEPマイクロカプセル剤
テブフェノジド水和剤	MIPC粒剤
テブフェノジド・ブプロフェジン水和剤 ※	MPP粉剤

注) ※については平成23年1月追加。

## 殺菌剤

農 薬 の 種 類	農 薬 の 種 類
アゾキシストロビン水和剤	ピロキロン粒剤 ※
アゾキシストロビン粒剤	フェノキサニル粉剤
イソプロチオラン水和剤	フェノキサニルマイクロカプセル剤
イソプロチオラン乳剤	フサライド水和剤（フロアブル剤に限る。地上散布は1000～1500倍に限る）※
イソプロチオラン粉剤	
イプロナゾール水和剤	フルジオキソニル水和剤
イプロナゾール乳剤	フルジオキソニル・ペフラゾエート乳剤
イプロナゾール・銅水和剤	フルトラニル水和剤（フロアブルは除く）
オキソリニック酸水和剤	フルトラニル乳剤
オキソリニック酸・フルジオキソニル水和剤	フルトラニル粉剤
オキソリニック酸・ペフラゾエート水和剤	フルトラニル粒剤
タラロマイセス フラバス水和剤	プロクラズ乳剤 ※
チウラム・ベノミル水和剤	プロベナゾール粒剤 ※
チウラム・ペフラゾエート水和剤	プロベナゾール粉粒剤 ※
銅粉剤	プロベナゾール水和剤 ※
銅・フルジオキソニル・ペフラゾエート水和剤	ベノミル水和剤
トリコデルマ アトロビリデ水和剤	ペフラゾエート水和剤
バチルス シンプレクス水和剤	ペフラゾエート乳剤
バチルス ズブチリス水和剤	T P N水和剤
ヒドロキシイソキサゾール液剤	T P N粉剤

注) ※については平成23年1月追加。

## 殺虫殺菌剤

農 薬 の 種 類	農 薬 の 種 類
イミダクロプリド・カルプロパミド・チフルザミド・ダイムロン粒剤	チアメトキサム・ピロキロン粒剤
	フィプロニル・アゾキシストロビン粒剤
カルボスルファン・プロベナゾール粒剤 ※	フィプロニル・イソプロチオラン粒剤 ※
ジノテフラン・フィプロニル・プロベナゾール粒剤 ※	フィプロニル・イソプロチオラン・ピロキロン粒剤 ※
ジノテフラン・プロベナゾール粒剤 ※	フィプロニル・プロベナゾール粒剤 ※
ジノテフラン・プロベナゾール水和剤 ※	

注) ※については平成23年1月追加。

## 農薬肥料

農 薬 の 種 類	農 薬 の 種 類
ウニコナゾールP複合肥料	プロベナゾール複合肥料 ※

注) ※については平成23年1月追加。

## 植物成長調整剤

農 薬 の 種 類	農 薬 の 種 類
ウニコナゾールP液剤	過酸化カルシウム粉粒剤
ウニコナゾールP粒剤	

## ② 雜草防除

WCS用イネにノビエ等の雑草が混入した場合、水分含量の相違等から品質が低下するため、雑草防除を的確に行う必要がある。特に、直播栽培を導入する場合には、雑草が繁茂しやすいので、初期の雑草防除が重要である。

稻用に登録されている農薬のうち、直播水稻への適用があり、①登録時のデータから稻わらへの残留性が十分低いことが認められる農薬、②平成15年度以降に実施したWCS用イネでの残留性試験等により残留性がないと確認されている農薬は以下のとおりである。

除草剤を使用する場合には、これらの中から、都道府県の稻作指導指針等に記載されている農薬を、地域の農業改良普及センターの指導に従って作型や雑草の発生動向等を踏まえて選定する。除草剤の使用に当たっては、病害虫防除と同様に、農薬のラベルに記載されている「収穫〇日前まで」という使用時期の「収穫」をWCS用イネの収穫（黄熟期）にそのまま適用するため、防除可能な期間が食用イネより1週間～10日程度早まることに留意する必要がある。

また、立毛中の稻を利用した放牧についても、本マニュアルに記載された農薬の種類・使用方法に従うこと。

### 除草剤（直播栽培に適用できるもの）

農薬の種類	農薬の種類
イマゾスルフロン・エトベンザニド・ダイムロン粒剤	シハロホップブチル・ベンタゾン液剤
	ダイムロン・ベンスルフロンメチル・メフェナセット粒剤
エトベンザニド・ピラゾスルフロンエチル粒剤	トリフルラリン乳剤
	トリフルラリン粒剤
オキサジクロメホン・クロメプロップ・ベンスルフロンメチル水和剤	ビスピリバックナトリウム塩液剤
グリホサートアンモニウム塩液剤	ピラゾキシフェン粒剤
グリホサートイソプロピルアミン塩液剤	ピラゾスルフロンエチル・フェントラザミド粒剤
グリホサートカリウム塩液剤（ただし、水田畔での使用は除く）	ピラゾレート粒剤
シハロホップブチル乳剤	ピリミノバックメチル・ベンスルフロンメチル・メフェナセット粒剤
シハロホップブチル粒剤	ペノキスラム水和剤
シハロホップブチル・ピラゾスルフロンエチル・メフェナセット粒剤	ベンタゾン液剤

稻用に登録されている農薬のうち、移植水稻への適用があり、平成15年度以降に実施したWCS用イネでの残留性試験等により残留性がないと確認されている農薬は以下のとおりである。

除草剤を使用する場合には、これらの中から、都道府県の稻作指導指針等に記載されている農薬を、地域の農業改良普及センターの指導に従って作型や雑草の発生動向等を踏まえて選定する。

## 除草剤（移植栽培に適用できるもの）

農薬の種類	農薬の種類
イマゾスルフロン・エトベンザニド・ダイムロン粒剤	シハロホップブチル・ベンタゾン液剤
イマゾスルフロン・オキサジクロメホン・ダイムロン水和剤	ダイムロン・ベンスルフロンメチル・メフェナセット粒剤（有効成分含有量がダイムロン4.5%、ベンスルフロンメチル0.51%、メフェナセット10%の農薬に限る）
インダノファン・クロメプロップ・ベンスルフロンメチル粒剤	ドレクスレラ モノセラス剤
オキサジクロメホン・クロメプロップ・ピリミノバックメチル・ベンスルフロンメチル剤	ビスピリバックナトリウム塩液剤 ピラゾスルフロンエチル粒剤
オキサジクロメホン・クロメプロップ・ベンスルフロンメチル水和剤	ピラゾスルフロンエチル・フェントラザミド水和剤
カフェンストロール・シハロホップブチル・ダイムロン・ベンスルフロンメチル水和剤	ピラゾスルフロンエチル・フェントラザミド粒剤
グリホサートカリウム塩液剤（ただし、水田畦畔での使用は除く）	プレチラクロール粒剤 ペノキススラム水和剤
シハロホップブチル乳剤	ベンタゾン液剤
シハロホップブチル粒剤	ベンタゾン粒剤
シハロホップブチル・ピラゾスルフロンエチル・メフェナセット粒剤	ペントキサゾン水和剤